

## 建築物環境性能評価(CASBEE)の配慮事項

建築物の環境配慮を行う措置		具体的な事例（特に評価点が上がる事例）	
敷地外に与える建築物の環境負荷(L)	1. エネルギーの使用の抑制に関する措置	建物の熱負荷抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁、屋根等において断熱性の高い工法・資材等の採用（外断熱工法、ポリスチレンフォーム）</li> <li>窓部における、季節による太陽の高さの変化を考慮した、ルーバーの採用</li> <li>窓部における省エネルギー性の高い複層ガラス等の採用（熱反射ガラス）</li> </ul>
		設備システムの高効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>照明効率の高い器具の採用</li> </ul>
		エネルギーの効率的運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー年間消費量の目標管理の設定</li> </ul>
	2. 資源及び資材の適正な利用に関する措置	水資源保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水コマ、節水器具（節水型便器）、擬音装置等の設置</li> </ul>
		低環境負荷材の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>間伐材、日本国内から産出された針葉樹材の使用</li> <li>化学物質排出把握管理促進法の対象物質（アセトアルデヒド等）を含有しない建材の使用</li> <li>ハロン消化剤の不使用</li> </ul>
	3. 敷地外の環境への負荷の低減に関する措置	光害の抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>広告塔の夜間照明の周辺地域への影響の有無</li> <li>建物外壁の反射光の周辺地域への影響の有無</li> </ul>
		温熱環境悪化の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内での緑地や水面等の確保</li> </ul>
		地域インフラへの負荷抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な駐車台数の確保</li> </ul>
	敷地内における建築物の環境品質・性能(Q)	4. 室内環境の向上に関する措置	音環境の向上
温熱環境の向上			<ul style="list-style-type: none"> <li>冬期・夏期共に快適な室温を実現することが可能な設備容量の確保</li> <li>外壁、屋根や床での断熱材の使用</li> <li>居住域の上下温度差や気流速度が少なくなるように配慮された空調方式の採用</li> </ul>
光・視環境の向上			<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間の室内の机上面での適正な照度の確保</li> </ul>
空気質環境の向上			<ul style="list-style-type: none"> <li>化学汚染物質を含んでいない建築材料の積極的な採用</li> <li>換気量の十分な確保</li> <li>全面禁煙又は分煙対策（喫煙ブースの設置）の実施</li> </ul>
5. 建築物の長期間の使用の促進に関する措置		対応性・更新性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線・通信配線の更新が可能な電気配管の設置</li> </ul>
6. 周辺地域の環境の保全に関する措置		生物環境の保全と創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくり</li> </ul>
		まちなみ・景観への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地を設けることによる良好な景観形成</li> </ul>